

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 293 回 雑感「渋谷・ニューイヤーコンサートとNHKホール」

2009.1.11

世界的オペラ歌手「小山由美」さんから、電話があった。「NHKのニューイヤーに出るの、チケットあるから来ない？」チケットは完売と聞いていたので、願ってもないチャンス。家内と一緒に正月3日、ほろ酔い気分抜け切らぬ中、渋谷のNHKホール目指して出かける事となった。

渋谷は、もう随分ご無沙汰である。NHKホールも、何年と行っていない。ニューイヤーオペラコンサートのライブは初めて、しかも、テレビで実況生中継されるとなると、おのずと心が躍ってくる。

渋谷駅、1日平均乗降客数約219万人、世界第4位のこの駅で、加えて「正月三日」のハレの日にと、もちろん覚悟はしていたつもりである。が、その覚悟は一瞬のうちにぶち壊された。予想を絶する「人」の波に翻弄され、飲み込まれ、身動きが取れない...田舎ものの自分に「はっ」と気づき、驚愕しながらさまようしかなかった。

家内と、滅多にない、せっかくの渋谷デート、^{おいしい}美味しいものでも食べていこう！

たぶん、そうだろうと思っていたが、この街は「おじさん、おばさん」に優しくない。ヤング好みの店はこれでもか！と云うほどあるくせに、おじさんとおばさんが、「落ち着いて、ちょっとセレブにグルメしたい」こんな欲求には、中々振り向いてくれないようだ。食事もそこそこにして、やっとの思いでNHKホールにたどり着いた。NHKホール、学生時代何度となく通いつめた筈だったが、迷い、間違い、恐らく常連客の倍ほど歩いたかもしれない。

場内は、およそ10台のTVカメラ、数え切れない照明器材とコントロールエリアが設営されている。午後7時ぴったりに、コンサートは始まった。そう、当然、生中継である。由美ちゃんを含め総勢19人の、日本を代表するオペラ歌手、ジャズピアニストにバレエ団と、3つの合唱団、^{いいよりのりちか}飯森範規指揮、東京フィルハーモニー交響楽団という、豪華絢爛、正に年明けに相応しい、ガラ・コンサートである。

雰囲気十分の中で始まったコンサートだが、何かしっくりしない。なぜ、オーケストラピットがあんなに深いのだろう。客席から指揮者も見えないし、音がホールに響いてこない。歌手達はそれぞれの力量の中で、見事な演奏を披露していた。由美ちゃんの「カヴァレリア・ルスティカーナ」も素敵だった。でも、実際ホールの席にいて、ライブの醍醐味が伝わってこない。^{かつぎ}活舌が悪いのは、歌い手のせいではないようだ。何か変？ そんなことを気かけながら、無事生中継は終了した。

なるべく早く家に帰り、デジタルビジョンで留守録を見たい、そんな思い一杯に、足早に駅に向かった。午後9時半を回った、底冷えするこの街に、溢れるほどの人の波。不夜城たる渋谷の街を、何とか、懸命に駆けぬき、電車を目指す。

自宅に着き、早々に、気の利いたワインと、サーモンのカナッペを用意。早速、先程のライブの感動をもう一度...とばかり、デジタルビジョンを前にワイングラスを傾けた。

テレビをつけた瞬間、なるほど！ NHKホールでのモヤモヤが一瞬のうちに晴れわたった。

テレビで見るコンサートは、音も映像も、完璧に素晴しかった。生中継のはずなのに、あの場で感じたデリケートな違和感は全くなかった。番組としては、見事な限りである。

なるほど、そうだったのか！ あのホールは、決してコンサートホールではないのだ。^{なま}生で聴いているお客様ではなく、全国でNHKテレビを見ている視聴者のためにある、巨大なるスタジオなのだ。新年早々、変に納得した妙な1日であった。もう少し、残っているワインを呑み干して、^{やす}寝むとする。